

ツシマヤマネコの保護増殖事業に関する経済価値評価の実施概要

1. 評価対象

ツシマヤマネコの個体数の増加（20年後までに約40頭の増加）

2. 評価手法

- ・ 経済価値評価に当たり、環境の変化に対する支払意思を尋ねる仮想評価法(CVM)を用いた。
- ・ 評価のためのアンケート回収手法として、インターネットによる Web アンケートを採用した。
- ・ CVM 調査における支払意思額を推定するための手法として、NOAA のガイドラインにおいて推奨されている二肢選択法（ダブルバウンド）方式を採用した。
- ・ 評価に当たっては、栗山委員作成の「Excel でできる CVM Ver.4.0」を使用して、支払意思額の推定や要因分析を行った。
- ・ なお、CVM 調査と並行して、ツシマヤマネコ米に対する購入意思を尋ねるアンケートを実施した。

3. 評価対象のシナリオ

新たに「ツシマヤマネコ保全基金」を設置して、募金を集める。この基金への支払いにより、20年後の時点で野生のツシマヤマネコの生息数は現在よりも約40頭増加し、1980年代の生息数である約140頭まで回復すると仮定した。

このシナリオは「ツシマヤマネコ保護増殖事業実施方針」の中期目標（2035年ごろまでに、1980年代の生息面積まで回復）に沿った内容である。

4. 調査フロー

調査票は、専門委員（栗山委員、趙委員、吉田委員）からの助言に基づいて作成した。

また、評価（本調査）に先立ち、予備調査を実施した。

